

噴火浅根の火山活動解説資料（令和4年3月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

噴火浅根では27日から28日かけて、気象衛星ひまわりにより噴火を観測しました。このため、27日に噴火警報（周辺海域）及び火山現象に関する海上警報を発表しました。噴火浅根の周辺海域では今後も噴火活動が継続する可能性がありますので、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石やペースサージ（横なぐりの噴煙）に警戒してください。また、噴火による浮遊物（軽石等）に注意が必要です。

○ 活動概況

・衛星および上空からの観測による噴火の状況（図2、図3）

気象衛星ひまわりの観測によると、噴火浅根（母島の南西約160kmにある海底火山）で、27日18時頃から噴煙の可能性のある雲が見え始め、同日21時頃から噴煙が明瞭になり、海面上約5,500mの高さまで上がっていることを確認しました。その後、23時30分頃から28日03時頃にかけて、噴煙高度は海面上約7,000mの高さまで達しましたが、28日08時20分頃には海面上約3,600mまで低下し、同日14時20分には、噴煙は確認されなくなりました。

29日に海上保安庁が実施した上空からの観測によると、噴火浅根周辺海域では、噴火、変色水、浮遊物等は認められませんでした。

・27日の噴火以前の状況（図4）

海上保安庁、及び海上自衛隊によるこれまでの観測によると、噴火浅根付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されていました。

最近では、2021年8月5日に海上保安庁が実施した上空からの観測で、薄い青白色の変色水域が認められましたが、その後の2021年11月11日、12月27日、2022年3月15日の同観測では、変色水域等の特異事象は認められず、顕著な変化はありませんでした。

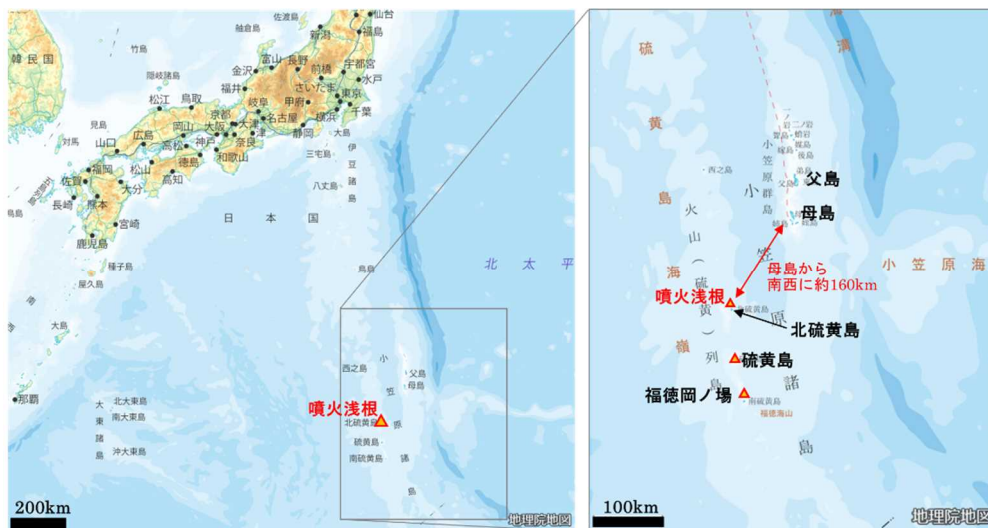


図1 噴火浅根 位置図

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は、海上保安庁及び海上自衛隊のデータを利用して作成しています。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『電子地形図（タイル）』を使用しています。

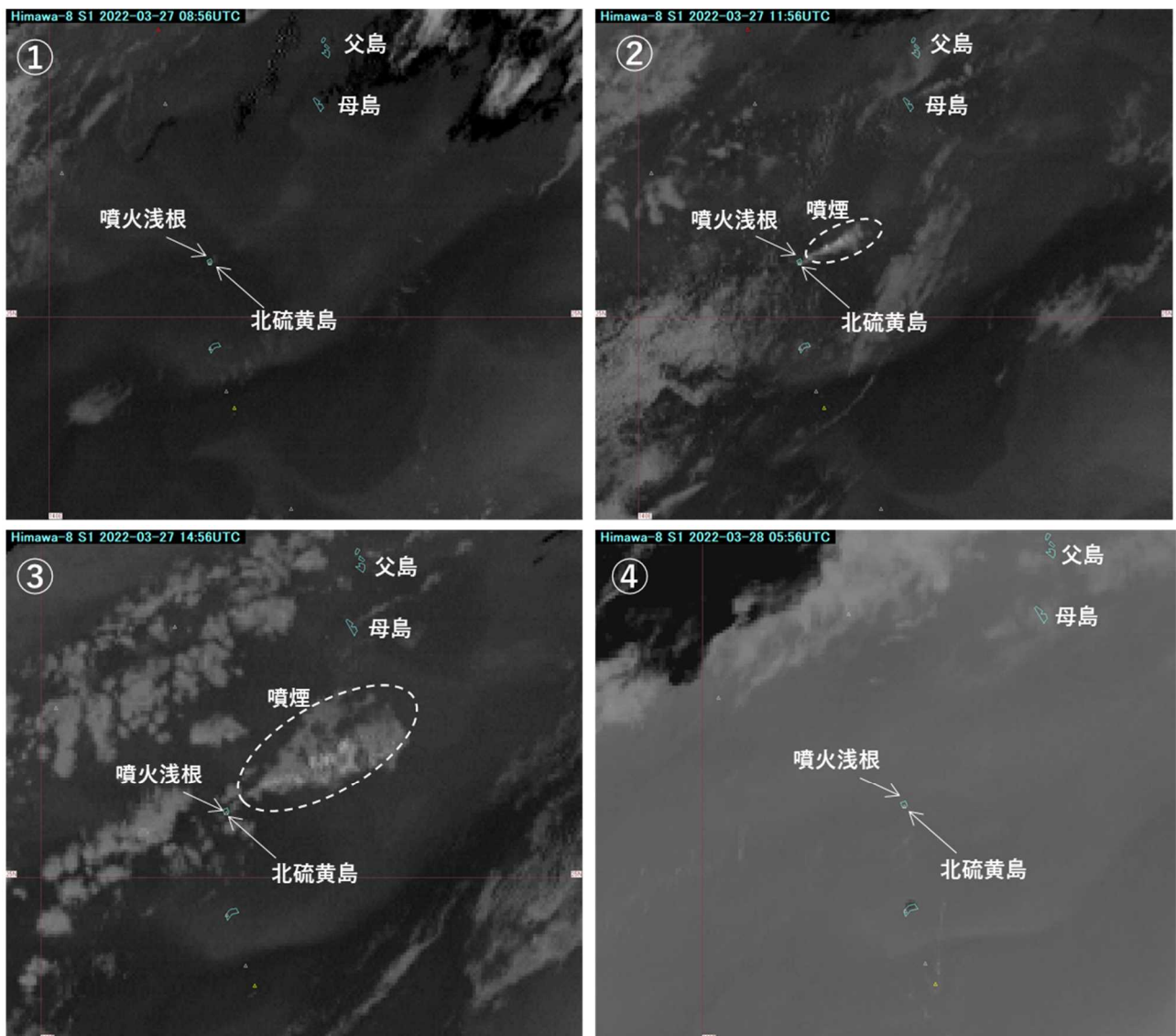


図2 噴火浅根 気象衛星ひまわりの画像（赤外差分画像）

- ① 3月27日18時00分頃
 - ・27日18時頃から噴煙の可能性のある雲が見え始めました。
- ② 3月27日21時00分頃
 - ・27日21時頃から噴煙が明瞭になり、海面上約5,500mの高さまで上がっていることを確認しました。
- ③ 3月28日00時00分頃
 - ・27日23時30分頃から28日03時頃にかけて、噴煙は海面上約7,000mの高さで推移しました。
- ④ 3月28日15時00分頃
 - ・28日08時20分頃には、噴煙は海面上約3,600mの高さまで低下し、14時20分頃には、噴煙は確認されなくなりました。



図3 噴火浅根 29日の状況

- ・29日に海上保安庁が実施した上空からの観測によると、噴火浅根周辺海域では、噴火、変色水、浮遊物等は認められませんでした。

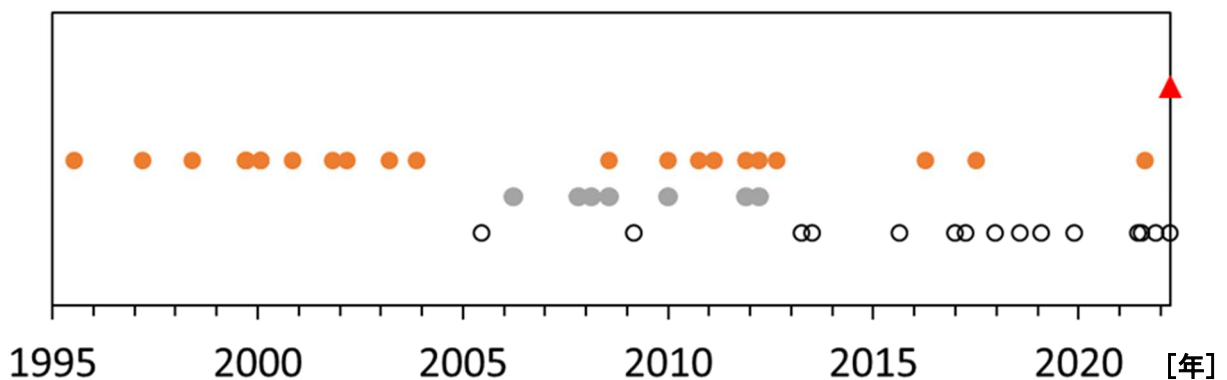


図4 噴火浅根 1995年以降の活動状況

シンボルがあるタイミングで観測が行われています。▲は噴火（気象衛星ひまわりによる観測）、●は変色水域が認められた観測、●は気泡の湧出が認められた観測、○は変色水域が認められなかった観測を示します。海上保安庁及び海上自衛隊の観測による。

- ・噴火浅根の噴火は、1930年から1945年にかけての噴火以来です。
- ・噴火浅根付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されていました。
- ・最近では、2021年8月5日に海上保安庁が実施した上空からの観測で、薄い青白色の変色水域が認められました。変色水が確認されたのは2017年6月28日以来でしたが、その後の2021年11月11日、12月27日、2022年3月15日及び3月29日に海上保安庁が実施した上空からの観測では、変色水域等の特異事象は認められませんでした。

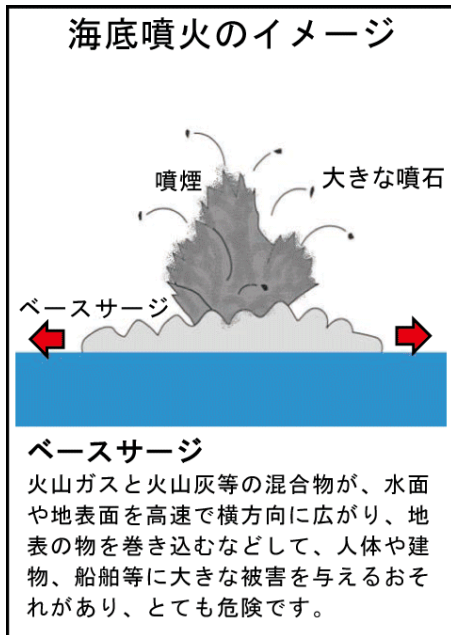


図5 海底噴火による影響のイメージ